


## ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	青森県立七戸養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 ■自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	よく見てさがそう		
	単元(題材)の目標	眼球をよく動かし、素早く間違えずに数字を順番にタッチすることができる。		
学習集団と実態	学部・学年・人数	中学	部	1 年 1 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	※個別学習の場合は、個人の本単元（題材）における主な実態を端的に記入する。 てんかん発作の後遺症による左半身麻痺（軽度） 文字を書くときにマスからはみ出てしまう。筆算の計算で、桁を揃えてノートに書き、計算することが難しく、書いているうちに位がずれてしまう。		
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称	※使用した ICT 機器（入出力支援装置等）名を記入する。 ipad		
	使用したアプリケーションの名称	※使用したアプリケーション名を記入する。 「ナンバータッチ」		アプリマーク 
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 <input type="checkbox"/> 活動支援 ( <input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援 ) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 ( <input type="checkbox"/> 教科学習支援 ■認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援 )		
	ICT活用のねらい	ipad の「ナンバータッチ」のソフトを使い、ビジョントレーニングによる眼球運動と手の運動のトレーニングを行い、眼球をよく動かし、数字を順番にタッチすることで、視覚機能の向上を目指す。		
活用の状況と支援	※ICT 活用場面と行った支援について記入する。 <手順> 1～5、1～10 を5回、1～20 を5回連続して行う。 (1) はじめの段階…1～5、1～10 教師の指示でスタートし、タイムとタッチミスを計測 (2) 慣れてきた段階…1～10、1～20 自分でスタートし、実施回数を磁石で数えながら実施。タイムとタッチミスは、自動記録機能を使用。 <実施の様子> (1) 画面をよく見て慎重にタッチして課題に取り組んでいた。初めは時間がかかり、徐々に慣れて時間が短くなり、また遅くなった。 (2) 慣れるにつれて急いで答えようとタッチミスが多くなる。また、自分で回数を確認しながら行うという、行程が2つ以上になったことで、時間がかかったり、ミスが増えたりした。(課題処理のキャパオーバー) また、出題数が増えると、次の数字を忘れる場面も見られるようになった。(集中力の欠如) <取り組み方法の工夫> ・課題に集中できるように、教師が回数を数えて問題を解くようにする。 ・課題に集中できるように、静かな環境で行う。 ・数唱しながら行う。			